

空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業について

1 事業概要

地域の中で孤立しやすい「未就園児」を保育所等で週に1～2回程度預かることにより、子どもの発達を促すとともに、保護者の育児負担の軽減を図る。

さらに、保健センターと連携して「要支援家庭等の児童」の預かりも実施し、事業全体を「しながわモデル（愛称「トキメキ☆ドキドキ トキドキ保育」）」として位置付け、事業を実施。

2 事業内容・経過

(1) 対象児童

保育園・幼稚園等を利用していない未就園児（原則0～2歳児）

(2) 事業内容

- ① 週1～2回程度の継続的かつ定期的な預かりを実施。
- ② 集団における子どもの育ちに着眼した支援計画を作成し、日々の保育の状況を記録する。
- ③ 保護者に対して定期的な面談などを実施し、子育てに関する助言等を行う。

(3) 実施施設（令和6年1月時点）

施設名称	施設種別	利用実績	事業スキーム
保育ルーム Clover 西小山園Ⅱ	小規模保育事業	3名	保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業（国事業）（委託）
おうち保育園おおいまち	小規模保育事業	1名	多様な他者との関わりの機会の創出事業（都事業）（補助）
はぐはぐキッズ荏原町	小規模保育事業	1名	
はぐはぐキッズ二葉	保育所	0名	
ウィズブック保育園荏原	保育所	0名	
ポピンズナーサリースクール目黒	保育所	15名	
そらのいろ保育園	保育所	2名	
品川学藝保育園	保育所	1名	

※国事業は7月から、都事業は11月以降順次預かりを実施

(4) 検討会等

- ① 事業の効果検証を行うため、令和6年1月末までに検討会を3回実施
（第1回：6月1日、第2回：10月23日、第3回：1月30日）
- ② 実施施設による意見交換会を実施（1月16日）

3 実績および効果

子どもの成長としては、他者との関わりを通じた言語面の発達などが、保護者の心理面や子育て環境については、時間的・精神的な余裕をもたらす効果が見られた。

一方、通常の保育と比較して子どもが環境に慣れるのに時間がかかる、保護者との面談等の保育現場の負担が大きい、要支援家庭等の場合、保護者対応により高いスキルが求められる、需要に対して供給量が不足している、といった課題が見られた。

年度末に予定している第4回検討会に向けて、引き続きデータ収集と検証を進める。